

# LOBO 早期景気観測

11月分 日商調査日 11月5日～16日  
当所調査日 11月5日～19日

## LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査  
11月の全産業DI ▲21・1  
(前月比+7・8ポイント)

### ○中小企業の景況感

全業種において景況は改善。時短要請や活動制限の緩和に伴い、客足が戻りつつある外食・観光関連のサービス業や、民間工事が持ち直しつつある建設業などで業況改善の動きがみられる。一方で、製造業、卸売業を中心に、半導体不足や部品供給制約による生産活動への影響が継続している。幅広い業種で、鉄鋼などの原材料費や原油価格を含む資源価格の上昇などのコスト増加が続いており、中小企業の景況感はコロナ禍からの回復に向けた動きがみられるものの、力強さを欠く。

### ○先行き

先行き見通しDIは、▲17・5(11月比+3・6ポイント)。

感染対策と社会経済活動の両立に向けた国・自治体の動きの加速による、年末年始の商戦を契機とした個人消費

拡大や、国内の観光需要回復などへの期待感がうかがえる。一方で、半導体不足や部品供給制約の長期化、資源価格の高騰、円安の進行、原材料費上昇分の価格転嫁の遅れなど、コスト上昇圧力が重荷となり、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

銅の価格上昇により、電線やケーブルの価格が上昇しているが、顧客とは価格上昇前の見積もりで契約しているため、価格転嫁が難しく対応に苦慮している(電気通信工事業)。

緊急事態宣言などの解除以降、客足は回復しているものの、客単価が低下しており売上は伸び悩んでいる。内食需要も落ち着きつつあり、今後は非接触化など生活様式の変化に対応した販促・営業活動を検討していく(総合スーパー)。

### 【三所調査】

「緊急事態宣言明け、戻りつつある景況感」

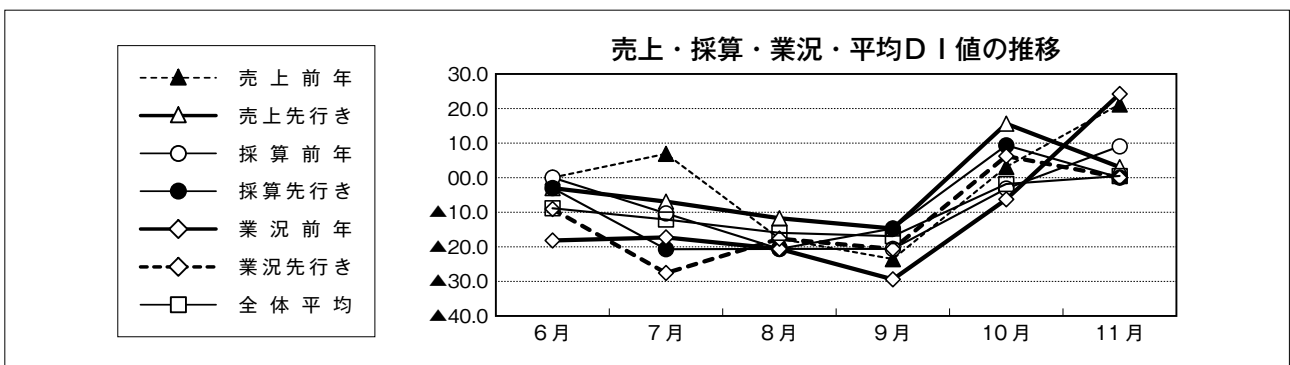
全体平均DIは0・5で前月に比べ2・3ポイントの増加。項目別では、売上前年が18・1ポイント、業況前年30・5ポイントと、各項目で増加が見られた。寄せられたコメントには、「緊急事態宣言が終わり、人出が増えてきたようである」(菓子小売業)、「今月は新型コロナウイルス流行以前の平均的売上高と同等であった」(織物手加工染色整理業)、など、新型コロナウイルスの収束により、業況が好転してきたことがうかがえる。

## 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(全産業)

(サンプル数40社)

項目	令和2年		令和3年				
	11月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上前年	▲ 42.3	0.0	6.9	▲ 17.6	▲ 23.5	3.1	21.2
売上先行き	▲ 42.3	▲ 3.0	▲ 6.9	▲ 11.8	▲ 14.7	15.6	3.0
採算前年	▲ 30.8	0.0	▲ 10.3	▲ 20.6	▲ 20.6	▲ 3.1	9.1
採算先行き	▲ 38.5	▲ 3.0	▲ 20.7	▲ 20.6	▲ 14.7	9.4	0.0
仕入前年	▲ 23.1	▲ 45.5	▲ 48.3	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 53.1	▲ 51.5
仕入先行き	▲ 26.9	▲ 42.4	▲ 34.5	▲ 41.2	▲ 38.2	▲ 46.9	▲ 57.6
社員前年	15.4	15.2	20.7	11.8	11.8	18.8	21.2
社員先行き	3.8	12.1	13.8	5.9	14.7	25.0	21.2
業況前年	▲ 34.6	▲ 18.2	▲ 17.2	▲ 20.6	▲ 29.4	▲ 6.3	24.2
業況先行き	▲ 42.3	▲ 9.1	▲ 27.6	▲ 17.6	▲ 20.6	6.3	0.0
資金前年	▲ 38.5	0.0	▲ 6.9	0.0	▲ 17.6	0.0	15.2
資金先行き	▲ 26.9	▲ 12.1	▲ 13.8	▲ 8.8	▲ 2.9	9.4	0.0
全体平均	▲ 27.2	▲ 8.8	▲ 12.1	▲ 15.9	▲ 16.9	▲ 1.8	0.5



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。